

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成30年1月31日

協議会名: 沖縄県生活交通確保維持協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>沖縄バス(株) 名護東線</p>	<p>(運行区間) 那覇～辺野古～名護</p>	<p>【前回評価結果】 ○今後も地域における潜在需要の掘り起こし、適切な利用促進を図られたい。 →引き続き啓発活動を実施し、関係市町村と運行事業者においては、広報活動を実施し利用促進と需要の掘り起こしを行った。</p>	<p>A 事業は概ね適切に実施された。</p>	<p>A ■運行日数 (目標) 365日→(実績) 365日 ■運行回数 (目標) 7,907回→(実績) 7,878.0回 ■平均乗車密度 (目標) 5.2人→(実績) 5.6人 ■輸送量 (目標) 112.3人→(実績) 120.4人</p>	<p>目標を達成 今後も引き続き、バスロケーションシステム活用の周知や路線沿線の学校へバス通学の案内を行うなどの啓発活動を実施し、利用者の増加に努める。 また、ICカード導入により利用者状況及び利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直しを行うなど、持続可能な運行を検討する。</p>
<p>沖縄バス(株) 与勝線</p>	<p>(運行区間) 那覇～渡口～屋慶名</p>	<p>【前回評価結果】 ○今後も地域における潜在需要の掘り起こし、適切な利用促進を図られたい。 →引き続き啓発活動を実施し、関係市町村と運行事業者においては、広報活動を実施し利用促進と需要の掘り起こしを行った。</p>	<p>A 事業は概ね適切に実施された。</p>	<p>B ■運行日数 (目標) 365日→(実績) 365日 ■運行回数 (目標) 7,470回→(実績) 7,440.5回 ■平均乗車密度 (目標) 4.7人→(実績) 4.6人 ■輸送量 (目標) 95.8人→(実績) 93.3人 乗車密度や輸送量については定期券利用者の減少もあり達成できなかったと考える。</p>	<p>目標を未達成 今後も引き続き、バスロケーションシステム活用の周知や路線沿線の学校へバス通学の案内を行うなどの啓発活動を実施し、利用者の増加に努める。 また、導入したIC(OKICA)の利用状況の把握に努め、利用者減少がみられる区間についてダイヤの見直しを行うなど、関係自治体とも連携し持続可能な運行を検討し、目標達成に向けて努力する。</p>

【各評価項目の評価基準】

①事業実施の適切性

- A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された(されている)。
- B…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった(一部実施されない見込み)。
- C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった(実施されない見込み)。

②目標・効果達成状況

- A…事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み)。
- B…事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)。
- C…事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成30年1月31日

協議会名: 沖縄県生活交通確保維持協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)琉球バス交通 玉泉洞糸満線	(運行区間) 糸満～具志頭～玉泉洞	【前回評価結果】 ○今後も地域における潜在需要の掘り起こし、適切な利用促進を図られたい。 →引き続き啓発活動を実施した他、関係市町村と運行事業者においては、広報活動を実施し利用促進と需要の掘り起こしを行った	A 概ね事業は適切に実施された。	A ■運行日数 (目標) 365日→(実績) 365日 ■運行回数 (目標) 4,261回→(実績) 4,244回 ■平均乗車密度 (目標) 1.7人→(実績) 1.8人 ■輸送量 (目標) 19.7人→(実績) 20.8人	目標を達成 今後も引き続き、バスロケーションシステム活用の周知や路線沿線の学校へバス通学の案内を行うなどの関係市町村とともに啓発活動を実施し、利用者の増加に努める。 また、導入したIC(OKICA)の利用状況の把握に努め、アンケート調査の活用、利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直しを行うなど、関係市町村と連携し持続可能な運行を検討する。
(株)琉球バス交通 豊見城市内一周線	(運行区間) 豊崎～渡橋名～豊崎	【前回評価結果】 ○今後も地域における潜在需要の掘り起こし、適切な利用促進を図られたい。 →引き続き啓発活動を実施した他、関係市町村と運行事業者においては、広報活動を実施し利用促進と需要の掘り起こしを行った	A 概ね事業は適切に実施された。	B ■運行日数 (目標) 365日→(実績) 365日 ■運行回数 (目標) 4,888回→(実績) 4,870回 ■平均乗車密度 (目標) 4.7人→(実績) 4.3人 ■輸送量 (目標) 62.5人→(実績) 57.1人 乗車密度や輸送量については利用者の乗車距離が短くなったことで達成できなかったと考える	目標を未達成 今後も引き続き、バスロケーションシステム活用の周知や路線沿線の学校へバス通学の案内を行うなど啓発活動を実施し、利用者の増加に努める。 また、導入したIC(OKICA)の利用状況の把握に努め、利用者の減少がみられる沿線市町村の人口動態やアンケート調査を活用し、利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直しを行うなど、持続可能な運行を検討する。 また目標値の達成に向けた見直しについて関係市町村とともに計画の見直しを検討していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成30年1月31日

協議会名: 沖縄県生活交通確保維持協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)琉球バス交通 志喜屋線	(運行区間) 那覇～志喜屋～百名	【前回評価結果】 ○今後も地域における潜在需要の掘り起こし、適切な利用促進を図られたい。 →引き続き啓発活動を実施した他、関係市町村と運行事業者においては、広報活動を実施し利用促進と需要の掘り起こしを行った	A 概ね事業は適切に実施された。	A ■運行日数 (目標) 365日→(実績) 365日 ■運行回数 (目標) 3,420回→(実績) 3,405回 ■平均乗車密度 (目標) 3.3人→(実績) 3.9人 ■輸送量 (目標) 30.6人→(実績) 36.2人	目標を達成 今後も引き続き、バスロケーションシステム活用の周知や路線沿線の学校へバス通学の案内を行うなどの関係市町村とともに啓発活動を実施し、利用者の増加に努める。 また、導入したIC(OKICA)の利用状況の把握に努め、アンケート調査の活用、利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直しを行うなど、関係市町村と連携し持続可能な運行を検討する。

【各評価項目の評価基準】

①事業実施の適切性

- A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された(されている)。
- B…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった(一部実施されない見込み)。
- C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった(実施されない見込み)。

②目標・効果達成状況

- A…事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み)。
- B…事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)。
- C…事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成30年1月31日

協議会名: 沖縄県生活交通確保維持協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>【共同運行】 沖縄バス(株)・ (株)琉球バス交通 本部半島線</p>	<p>(運行区間) 名護～渡久地～名護</p>	<p>【前回評価結果】 ○今後も地域における潜在需要の掘り起こし、適切な利用促進を図られた。 →引き続き啓発活動を実施し、利用促進に努めた。</p>	<p>A 概ね事業は適切に実施された。</p>	<p>B ■運行日数 (目標) 365日→(実績) 365日 ■運行回数 (目標) 11,766回→(実績) 11,738.5回 ■平均乗車密度 (目標) 2.7人→(実績) 2.5人 ■輸送量 (目標) 86.9人→(実績) 80.2人 観光目的の利用者が落ち着きを見せたことや、名護市内の利用者は減少傾向にあることから実績が目標を下回った。病院の送迎車両や駐車場を持つ大型商業店舗等の影響等により生活路線としての利用者が減少傾向にあると考えられる。</p>	<p>目標を未達成 今後も引き続き、バスロケーションシステム活用の周知や路線沿線の学校へバス通学の案内を行うなど啓発活動を実施し、利用者の増加に努める。 また、導入したIC(OKICA)の利用状況の把握に努め、利用者の減少がみられる沿線市町村の人口動態やアンケート調査を活用し、利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直しを行うなど、持続可能な運行を検討する。 また目標値の達成に向けた見直しについて関係市町村とともに計画の見直しを検討していく。</p>
<p>【共同運行】 沖縄バス(株)・ (株)琉球バス交通 辺土名線</p>	<p>(運行区間) 名護～大宜味～辺土名</p>	<p>【前回評価結果】 ○今後も地域における潜在需要の掘り起こし、適切な利用促進を図られた。 →引き続き啓発活動を実施し、利用促進に努めた。</p>	<p>A 概ね事業は適切に実施された。</p>	<p>A ■運行日数 (目標) 365日→(実績) 365日 ■運行回数 (目標) 6,332回→(実績) 6,314.5回 ■平均乗車密度 (目標) 1.7人→(実績) 1.8人 ■輸送量 (目標) 29.4人→(実績) 31.1人</p>	<p>目標を達成 今後も引き続き、バスロケーションシステム活用の周知や路線沿線の学校へバス通学の案内を行うなどの関係市町村とともに啓発活動を実施し、利用者の増加に努める。 また、導入したIC(OKICA)の利用状況の把握に努め、アンケート調査の活用、利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直しを行うなど、関係市町村と連携し持続可能な運行を検討する。</p>

【各評価項目の評価基準】

①事業実施の適切性

- A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された(されている)。
- B…事業が計画に位置づけられたとおり実施されていない点があった(一部実施されない見込み)。
- C…事業が計画に位置づけられたとおり実施されなかった(実施されない見込み)。

②目標・効果達成状況

- A…事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み)。
- B…事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)。
- C…事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)。

事業実施と生活交通ネットワーク計画との関連について

平成30年1月31日

協議会名:	沖縄県生活交通確保維持協議会
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>【目的】</p> <p>住民の日常生活の足として欠かせない移動手段であるにもかかわらず、利用者減少等の結果、運賃収入による運行の維持が困難となっている生活交通路線に対し補助を行い、当該路線運行の維持・確保を図る。</p> <p>【必要性】</p> <p>本県のバス輸送を取り巻く環境は、モータリゼーション等の進展等により、非常に厳しい運営状況になっている。平成28年度における県内の年間輸送人員は約2,709万人で対前年度164万人増となっているが、復帰時(約1億562万人)の約25.6%にまで落ち込んでいる。</p> <p>乗客の減少による経営悪化は、運行回数の削減など輸送サービス、利便性の低下を招き、ひいては路線の廃止につながる事となる。バス路線が廃止されると、鉄道を持たない本県においては、自動車交通に頼らざるを得なくなり、地域住民、特に高齢者や児童生徒、無免許者などの生活(通勤・通学・通院等)に多大な影響を与える事となる。</p> <p>そのため、欠損を生じているバス路線を運行する事業者に対し補助を行うことで路線の維持・確保を図ることは、地域住民の日常の交通手段を確保するために必要な事業である。</p>